



JARA NEWS

September 2016, No. 103

from
Japan Automotive Recyclers Alliance
www.jara.co.jp

Published by JARA Corporation
Tokyo Head Office: Shinawa Bldg. 1-2-2-7F,
Nihonbashi, Chuo-ku, Tokyo JAPAN 103-0027
Phone: +81 3 3548 3010 / Fax: +81 3 3231 4690

JARA、SNSで 部品情報

日本自動車リサイクラーズ・アライアンス（JARA、北島宗尚社長、東京都中央区）は、SNS（ソーシャル・ネットワークワーキング・サービス）を活用した会員の業務支援を強化する。共有在庫システムで検索した部品情報をLINE（ライン）などのSNSで顧客に送信できる新機能を先月から開始した。会員はシステム上で簡単な操作を行うだけでメッセージを送るための定型文と商品情報が閲覧できる専用URLが自動で生成できるようになる。一方、顧客にとっては時間や場所を問わず商品内容を確認できるメリットがある。

JARAのリサイクルパーツネットワーク「ATRS（オートモビルトータルリサイクルシステム）」の新機能として追加した。定型文と専用URLは、システムで検索した部品詳細画面内の「商談情報コピー」ボタンを押すだけで自動生成される。ラインやメッセージャー、メールなどに添付することができ、顧客からの問い合わせに対し迅速、かつ正確に回答できるようになる。

商品情報は複数の商品を1つのURLで送信できることから、販売ロスの低減につながるメリットもある。また、WhatsApp（ワッツアップ）など海外で普及しているSNSにも送ることができるため販路拡大にも有効だ。

また、商品情報画面は顧客がスマホや

タブレットで閲覧する



ことを想定し、モバイル端末に対応する表示フォーマットを新たに作製した。さらに、顧客がユーザーに再送信するケースを見越し、価格は非表示にする工夫も施した。

JARAはSNSでの回答機能により会員と顧客双方の業務効率化を支援する考え。IT化によって時間を有効活用することで「付加価値を生む新しい仕事などにも取り組める」（北島社長）としており、両者の経営支援にもつなげる考えだ。

（日刊自動車新聞8月18日）

JARAグループ 北海道・東北ブロック実務者が例会、 サンケイ商会の工場見学

JARAグループ（今井雄治会長）北海道・東北ブロック（渡辺伸一ブロック長）はこのほど、岩手県金ヶ崎町のサンケイ商会（紺野正博社長）で「2016年度第2回北海道・東北ブロック実務者例会」を開催した。グループ会員事業者のフロントや部品生産担当者と提携するリビルド部品事業者の34人が参加。サンケイ商会の会社見学と講義を通じて、新たな知識の習得とブロック内で情報の共有化を図り、事業体質の強化に結びつける機会とした。

開催前に渡辺ブロック長は「見学と講義を通じて得たものは、皆さんの会社とJARAグループに生きてくる。しっかり学んでもらいたい」と挨拶した。紺野社長は「実務者例会では何を感じて、何をしていくのかを考え、今後実践していくことが大切だ。限られた時間を有意義にすごしてください」と受入側として歓迎の言葉を送った。



参加者に歓迎の言葉を述べるサンケイ商会紺野社長（写真左から2人目）

迎の言葉を送った。

例会では、サンケイ商会の使用済み自動車の適正な解体処理とリサイクル部品生産を行う工場と部品倉庫の見学を行った。参加者は、見学を通じて他社にない取り組みや改善する点などをアンケート用紙に記入した。この結果は、同社だけではなく、グループ全体で共有され、グループ全体の競争力強化に今後活かされていく。

続けて、JARA新規事業グループ飯野忠大グループ長が、使用済み車から生産する外装部品について、整備事業者の需要に沿って最適に生産することを通じた業務効率の改善について解説した。その後、グループ内部品流通の拡大に向けた取り組みについて各参加者が発表し、補修部品業界におけるリサイクル部品シェア拡大に向けて、ブロック内の結束を強めた。参加者同士が熱心に話し合う姿が見られ、ブロック内のさらなるレベルアップが期待できる例会となった。

（日刊自動車新聞8月18日）



会社見学で参加者間で意見を交換し合った。





天候に恵まれ家族連れら659人が訪れ賑わった



注目を集めたニブラショー

宮崎市の久保田オート パーツが恒例 自動車リサイクル祭り

自動車リサイクルについて知ってもらい、地域社会との共生を目指す。久保田オートパーツ（久保田泰規社長、宮崎市）は7日、本社敷地内で「第6回 自動車リサイクル祭り」を開催した。地域との結びつきを強める目的で実施し、一般客を招いて工場設備の見学など事業の説明をメインとしながら、家族連れ向けの催しも盛り込んだ。今回は天候に恵まれて、659人が訪れ会場内にはぎわっていた。

同社は、使用済み自動車（ELV）の解体やリサイクル部品生産を中核に事業を展開している。事業敷地は3万6400平方メートルを誇っている。恵まれた設備を生かして、ELVの受け入れを積極的に進めており、ディーラーや整備工場などからの入庫促進を図るほか、一般ユーザーからの買い取りにも力を注ぐ。

その一方で「地域とともに歩む」を会社の基本姿勢とし、小学校などからの要請を受けて、リサイクル工場の見学会を定期的に行っている。

こうした取り組みをさらに充実させて、一般の人々を対象とした大規模イベントである自動車リサイクル祭りを、毎年1回開いている。「地域の方々への恩返しと、工場を見てもらってリサイクルへの取り組み

を知ってもらいたい」という同社の思いを具現化したものだ。

6回目のリサイクル祭りを迎えるにあたって「原点に返り、改めて当社の仕事を理解してもらうイベントをメインとした」（久保田社長）という。今回は、（1）ニブラショー（2）大型自動車倉庫の見学（3）自動車解体の工程再現—の三つを、リサイクル祭りの柱に据えた。

ニブラショーでは、工場スタッフが観客を前にして、重機の大きなつめを器用に操作し注目を集めていた。倉庫の見学では、約2万5千点のリサイクル部品を収めている在庫の豊富さや、部品が素早く出庫されるスピードに、来場者から歓声が上がった。自動車の解体工程をスタッフが再現するところでは、車がバラバラになっていく様子に、感心して見入る人たちが多かった。

子どもや家族連れで楽しめるイベントに

メインのイベント以外にも、子どもたちを楽しんでもらう企画を行った。ホイールナットでコマを作成し、それを回して遊ぶコーナーでは、来場した子どもたちが夢中になる光景もあった。そのほかに縁日の実演などがあり、活気あふれるリサイクル祭りとなった。

（日刊自動車新聞8月25日）

CO2削減数値(SPLシステム)

リユースパーツ使用によるCO2削減効果
参考値 平成28年7月

3,474t

※一般、中・大型含む車を修理する際、新品部品を使用して修理する場合に出るCO2排出量とリサイクル部品を使用して修理する場合のCO2排出量の差がCO2削減数値になります。

一般社団法人日本自動車リサイクル部品協議会と早稲田大学環境総合研究センターがLCA（ライフ・サイクル・アセスメント）の考え方にに基づき共同開発した「グリーンポイントシステム」より参照。



約2万5千点のリサイクル部品を収める倉庫を見学

J A R A、沖縄で リサイクル部品販売強化

自動車リサイクル部品流通大手のJ A R A（日本自動車リサイクラーズ・アライアンス、北島宗尚社長、東京都中央区）は、沖縄県でのリサイクル部品販売を強化する。コールセンター内に受注対応などの専任者を配置し、現地社員の営業活動も強化する。既存のリサイクルパーツ購入サイト「リパーツダイレクトシステム（RDS）」と合わせ、沖縄県でのシェア拡大を狙う。

このほどJ A R A内にあるコールセンターに沖縄専任者を置いた。電話やFAX、在庫確認など受注対応に加え、「システム上に登録のない商品についても積極的に提案を行う」（同社）方針だ。

また、さらなる販売拡大に向けて沖縄出張所に駐在している社員の営業活動も強化する。ディーラーや板金整備工場を中心に営業を展開し、販路拡大を目指す。

同社は、沖縄での販売について「現地の多種多様なニーズを直接かつスピーディーに捉えられることが、沖縄に拠点を持つ同社の強み。現地スタッフとコールセンターとの連携を強化し、さらなるサービス向上を図る」としている。

（日刊自動車新聞8月4日）

PLACE AD

Advertiser wanted!

Advertise your excellent products and services to readers in the automotive recycling industry around the world!

Contact with JARA Corp.

<http://www.jara.co.jp/>

KOBELCO

低燃費のコベルコ!
低炭素社会の実現へ

コベルコが提案する 新しい考え方

1979年世界初の自動車解体機の発売以来、
30年以上にわたって金属リサイクル分野で常にリードし、
環境負荷の低減に貢献してきました。

マルチ解体機

使用済み自動車の解体以外にも廃家電などの金属製機器の解体および
さまざまな複合廃棄物の解体・分別作業が可能です。



SK135SRD

SK210D

コベルコ建機株式会社
<http://www.kobelco-kenki.co.jp/>

KOBELCO

We Save You Fuel
Advancing a LowCarbon Society

New ideas come from KOBELCO

Since launching the world's first car-dismantling machine in 1979,
KOBELCO has continued to take the lead in the metals recycling industry.
For over 30 years, we have contributed to reducing environmental impact.

Multi-Dismantling Machine

In addition to dismantling end-of-life cars,
Multi-Dismantling Machine can break down
various metal products and equipment
such as used household appliances and
can separate and sort various composite
material wastes.

Car-Dismantling Machine

Car-Dismantling Machine efficiently
separates and sorts raw materials in
end-of-life cars and is able to recover
rare earth metals.



SK210D



SK210D

KOBELCO CONSTRUCTION MACHINERY EUROPE B.V.
<http://www.kobelco-europe.com/>
KOBELCO CONSTRUCTION MACHINERY U.S.A. INC.
<http://www.kobelco-usa.com/>

KOBELCO

神鋼 无坚不摧!
您满意的选择

新构想源于神钢

1979年世界第一台汽车拆除机发售以来，
30多年来一直引领金属再生领域，
在降低对环境压力方面功不可没。

多功能拆除机

不仅可以拆除不再使用的汽车，还可以
拆除废家电等金属制机器以及各种复合
废弃物品的拆除、分类作业。

汽车拆除机

可快速进行报废汽车内素材的分类作业，
能够回收稀金属资源。



SK135SR

SK200

成都神鋼工程机械(集团)有限公司
<http://www.kobelco-jianji.com/>

KOBELCO

We Save You Fuel
Advancing a LowCarbon Society

새로운 발상은 KOBELCO에서

1979년 세계 최초로 자동차 해체기를 출시한 이래,
30여 년에 걸쳐 금속 재활용 분야에서 항상 앞장서서
환경 부하 저감에 공헌해 왔습니다.

멀티 해체기

용도 폐기된 자동차의 해체 외에도 폐가전제품 등 금속제 기기의
해체 및 다양한 복합 폐기물의 해체·분리작업이 가능합니다.



SK135SR



SK200

(주)삼정건설기계
<http://www.samjung-kenki.co.kr/>